

編集後記

気象庁が春先に公表した暖候期予報では、今年の夏は、エルニーニョの影響で、北日本の気温は平年並か低く、冷夏の恐れもあるとの予報が出されていました。しかし、蓋を開けてみれば、帯広で4月連休前に北海道で一番早く桜開花、5月から6月上旬は高温・干ばつ、6月上中旬は降雨日の連続、さらに7月は高温と、全般的に高温気味で推移し、气象台始まって以来の新記録続出。この天候は、豆類の生育にとっても、プラスに働いているようで、このままでいけば豊穡の秋が期待できそうです。

さて、またまた「この本を読んだら、おいしい和菓子が無性に食べたくなる」という衝撃的な本が何冊か話題になっています。ご紹介しますと、1冊目は、「和菓子のアンソロジー」です。ロングセラーが続いている「和菓子のアン」の著者・坂本司が、和菓子をテーマに、今一番読みたい旬な作家たち10人をお願いして作った新作短編集。日常の謎を描くミステリーから、壮大な世界観を展開するSF、心温まる優しい怪談まで、各種の和菓子が新しい切り口で味わえる作品集です。

2冊目は、新進気鋭のライトノベル作家・似鳥航一著の「お待ちしています 下町和菓子栗丸堂」です。一言でいえば、『ビブリア古書堂の事件手帖』の和菓子版です。浅草の一角で、町並みに溶け込むかのように佇む和菓子屋『甘味処栗丸堂』。店主は最近継いだばかりの若者でどこか危なっかしいが、腕は確か。思いもよらぬ珍客も訪れるこの店では、いつも何かが起こる。豆大福、どら焼き、そして干菓子のやさしい味わいがもたらす、珍騒動の数々をお楽しみください。

3冊目は、和菓子好き委員会あんこ部著の「あんこ読本—あんこなしでは生きられない—」です。あんこをこよなく愛する編集者、ライター、イラストレーターを中心に結成された委員会あんこ部のチャレンジ作品。あんこの歴史、基本知識、東西27の人気店・名店のあんこ職人の心意気、自分で作るおいしいあんこのつくり方までを徹底網羅した、あんこ好きも唸るあんこのすべてを知る、見るだけでも美味しい一冊です。いずれも豆類関係者、必読・必携の作品です。是非ご一読を。

10月13日は「豆の日」、10月は「豆月間」です。都内や全国各地域で豆にちなんださまざまなイベントやキャンペーンが展開されます。この中で、小学生に豆の栽培から豆料理づくりまで実際に体験してもらった新たな試みも進行中と聞いております。豆業界挙げての催しに関係者の皆様の叡智が結集できれば幸いです。(池田 洋一)

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL : 03-5570-0071
FAX : 03-5570-0074

豆類時報

No. 76
2014年9月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL : 03-3584-6845
FAX : 03-3584-1757